

## 円コース

第144期末(2023年1月18日)	
基準価額	4,760円
純資産総額	3,440百万円
第139期～第144期	
騰落率	4.8%
分配金(税引前)合計	200円

## ユーロコース

第144期末(2023年1月18日)	
基準価額	4,403円
純資産総額	12,885百万円
第139期～第144期	
騰落率	4.6%
分配金(税引前)合計	200円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

# 欧州ハイ・イールド債券 オープン(毎月決算型) 円コース/ユーロコース

追加型投信/海外/債券

作成対象期間：2022年7月20日～2023年1月18日

## 交付運用報告書

第139期(決算日2022年8月18日) 第142期(決算日2022年11月18日)

第140期(決算日2022年9月20日) 第143期(決算日2022年12月19日)

第141期(決算日2022年10月18日) 第144期(決算日2023年1月18日)

### 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。  
さて、「欧州ハイ・イールド債券オープン(毎月決算型)円コース/ユーロコース」は、このたび、第144期の決算を行いました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的にユーロ建て高利回り社債等に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ  
フリーダイヤル ☎0120-048-214 (営業日の9:00～17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

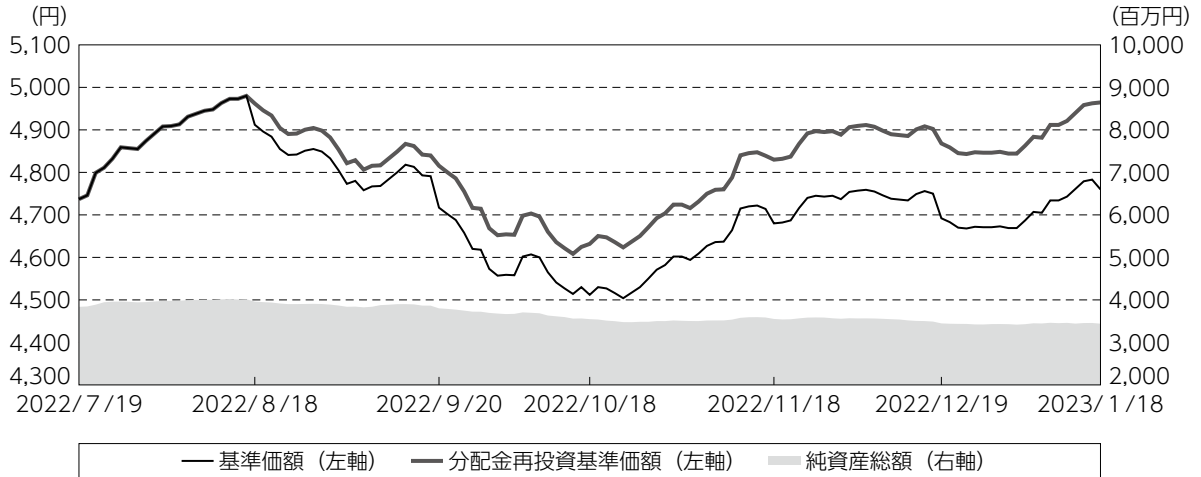
※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

## 運用経過

### 作成期間中の基準価額等の推移

(2022年7月20日～2023年1月18日)

#### 【円コース】



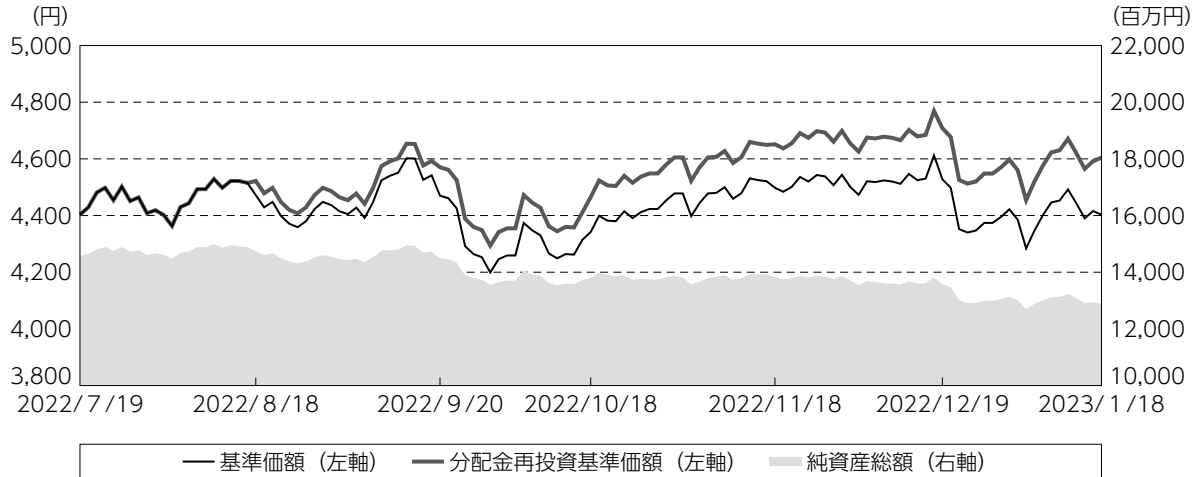
第139期首：4,737円

第144期末：4,760円（既払分配金（税引前）：200円）

騰落率：4.8%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2022年7月19日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

【ユーロコース】



第139期首：4,403円

第144期末：4,403円（既払分配金（税引前）：200円）

騰落率：4.6%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2022年7月19日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

主要投資対象である「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円／ユーロ）」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

**（主なプラス要因）**

- ・ 当作成期初から2022年8月中旬にかけて、米利上げペースが今後鈍化するとの期待から、市場のリスクセンチメントが改善したことや、相対的に高い利回りを求める投資家の需要から資金が流入し、スプレッド（国債との利回り格差）が縮小したことがプラスに寄与しました。
- ・ 2023年1月以降は、ユーロ圏においてもインフレ鈍化の兆しが見えてきたことが好感され、スプレッドが縮小したことがプラスに寄与しました。
- ・ 保有債券の利息収入の獲得がプラスに寄与しました。

**（主なマイナス要因）**

- ・ 2022年9月、ユーロ圏のインフレ高進を背景とした欧州中央銀行（ECB）による大幅利上げや、欧州のエネルギー不足に対する警戒感により、スプレッドが拡大したことがマイナスに影響しました。
- ・ ユーロコースにおいては、為替市場で、ユーロが対円で下落したことがマイナスに影響しました。

(2022年7月20日～2023年1月18日)

1万口当たりの費用明細

【円コース】

項 目	第139期～第144期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	24	0.513	(a)信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
( 投 信 会 社 )	(10)	(0.221)	
( 販 売 会 社 )	(13)	(0.276)	
( 受 託 会 社 )	( 1)	(0.017)	
(b) そ の 他 費 用	0	0.007	(b)その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託支払手数料
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.007)	
( そ の 他 )	( 0)	(0.000)	
合 計	24	0.520	
作成期間中の平均基準価額は、4,710円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

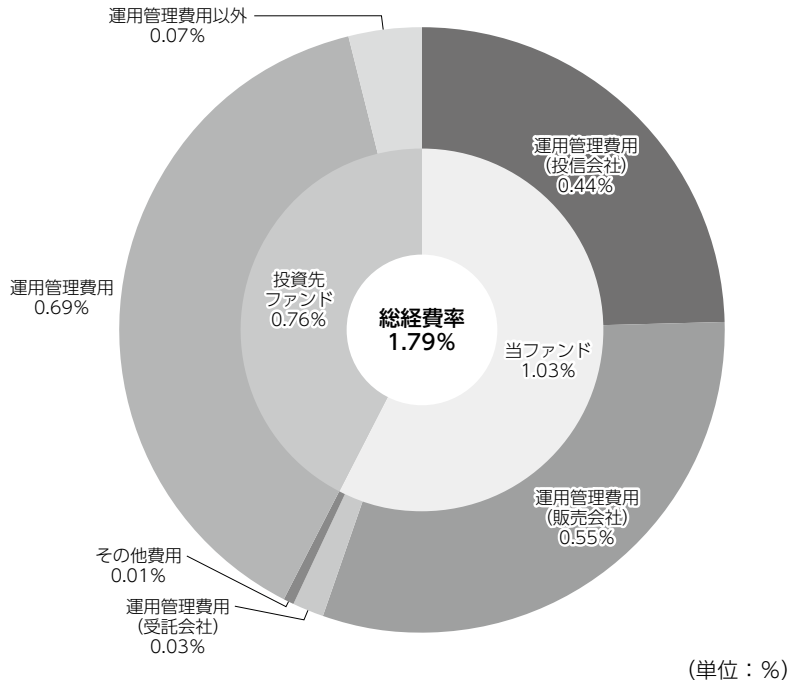
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.79%です。



総経費率 (①+②+③)	1.79
①当ファンドの費用の比率	1.03
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.69
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

【ユーロコース】

項 目	第139期～第144期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	23 (10) (12) ( 1 )	0.513 (0.221) (0.276) (0.017)	(a)信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用 ( 監 査 費 用 ) ( そ の 他 )	0 ( 0 ) ( 0 )	0.007 (0.007) (0.000)	(b)その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	23	0.520	
作成期間中の平均基準価額は、4,406円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

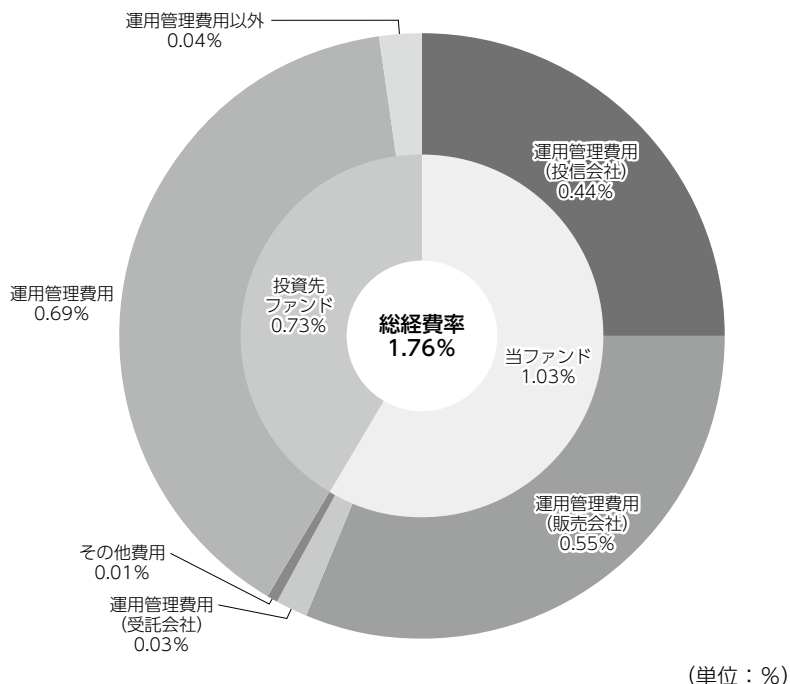
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.76%です。



総経費率 (①+②+③)	1.76
①当ファンドの費用の比率	1.03
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.69
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

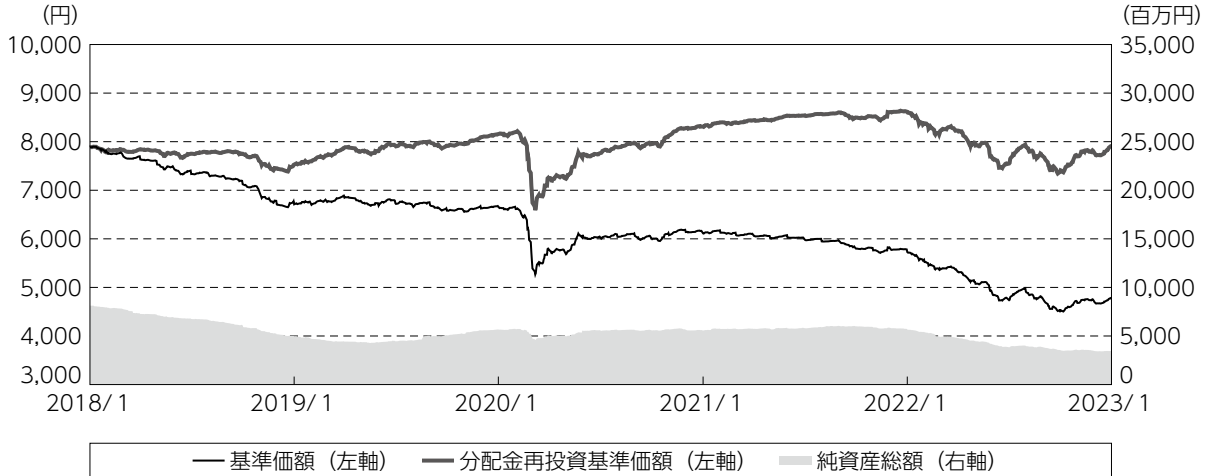
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



最近5年間の基準価額等の推移

（2018年1月18日～2023年1月18日）

【円コース】

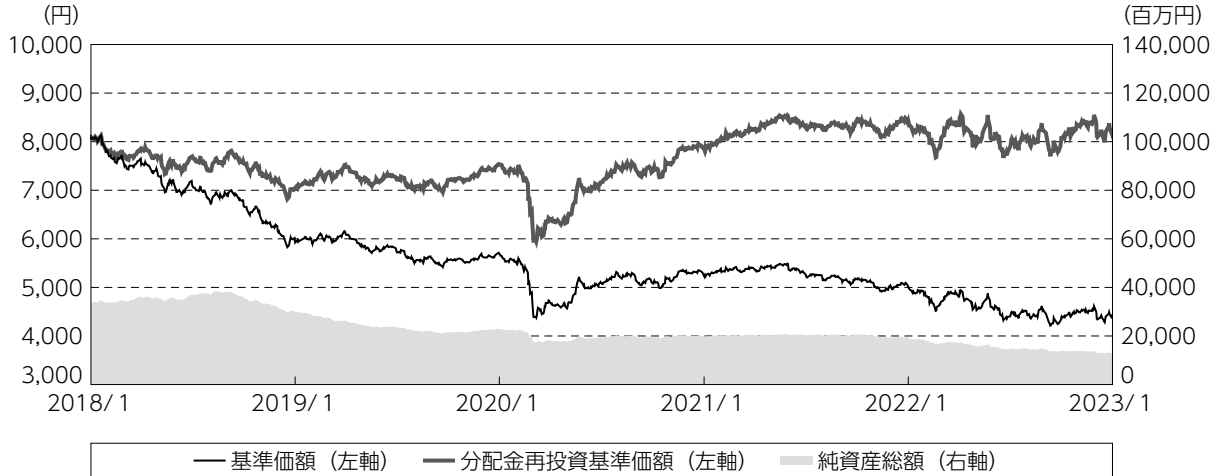


- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年1月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年1月18日 期初	2019年1月18日 決算日	2020年1月20日 決算日	2021年1月18日 決算日	2022年1月18日 決算日	2023年1月18日 決算日
基準価額 (円)	7,883	6,710	6,634	6,112	5,728	4,760
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	840	620	600	600	500
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 4.5	8.4	1.8	3.6	△ 8.1
純資産総額 (百万円)	8,112	4,961	5,649	5,561	5,671	3,440

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

【ユーロコース】



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年1月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年1月18日 期初	2019年1月18日 決算日	2020年1月20日 決算日	2021年1月18日 決算日	2022年1月18日 決算日	2023年1月18日 決算日
基準価額 (円)	8,043	5,923	5,654	5,236	5,011	4,403
期間分配金合計(税引前) (円)	—	1,200	650	600	600	500
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 12.4	6.8	4.3	7.3	△ 2.0
純資産総額 (百万円)	33,649	29,798	22,794	19,758	19,188	12,885

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 投資環境

（2022年7月20日～2023年1月18日）

### <欧州国債市場>

欧州国債市場では、主要な指標となるドイツの10年国債利回りは、高止まりするインフレ率を抑制するため、ECBがタカ派的な姿勢を強めたことにより、大幅に上昇（価格は下落）しました。

### <欧州ハイ・イールド社債市場>

欧州ハイ・イールド社債市場は、ECBによる大幅利上げが嫌気され、スプレッドが拡大した局面もありましたが、当作成期末にかけてはユーロ圏におけるインフレ鈍化の期待が高まるにつれてスプレッドは縮小し、前作成期末比で上昇しました。

### <為替市場>

為替市場は、日銀が金融緩和政策の修正に動いたことや、ユーロ圏におけるインフレ鈍化の観測から、ユーロは対円で小幅下落しました。

### <国内短期金融市場>

国内短期金融市場は、日銀が2022年12月の金融政策決定会合において金融緩和政策の一部修正を行ったことから、1年国債利回りが一時プラス圏に上昇する場面が見られました。しかし、2023年1月の金融政策決定会合では、マイナス金利を含む金融緩和政策の継続を決定したことから、1年国債利回りは再度マイナス圏へ低下しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2022年7月20日～2023年1月18日）

### 【円コース】

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円）」につきましては、組入比率を高位に維持しました。

### 【ユーロコース】

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」につきましては、組入比率を高位に維持しました。

### ○DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円／ユーロ）

国別の運用状況につきましては、経済回復が相対的に堅調な国の企業を中心に組み入れを行いました。セクター別では、グローバルに展開する企業が多い素材セクターのほか、ディフェンシブ性の高い電気通信サービスなどのセクターを高めの配分としました。格付け別では、相対的に割安感が見られるB格の債券を市場割合に対して多めに組み入れました。銘柄選択においては、リスク考慮後でも割安と判断される銘柄の購入や新発債の購入等を機動的に行いました。

### ○マネー・リクイディティ・マザーファンド

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とした運用を行い、政府保証債を組み入れました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年7月20日～2023年1月18日)

### 【円コース】／【ユーロコース】

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

## 分配金

(2022年7月20日～2023年1月18日)

各ファンドの分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額としております。

当作成期間におきましては、「円コース」、「ユーロコース」ともに、第139期から第140期までの決算期に1万口当たり50円（税引前）、第141期から第144期までの決算期に1万口当たり25円（税引前）、合計200円（税引前）の収益分配を行いました。

なお、両ファンドともに、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

### 【円コース】

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期	第144期
	2022年7月20日～ 2022年8月18日	2022年8月19日～ 2022年9月20日	2022年9月21日～ 2022年10月18日	2022年10月19日～ 2022年11月18日	2022年11月19日～ 2022年12月19日	2022年12月20日～ 2023年1月18日
当期分配金	50	50	25	25	25	25
(対基準価額比率)	1.008%	1.049%	0.551%	0.531%	0.530%	0.522%
当期の収益	45	41	25	25	25	25
当期の収益以外	4	9	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	5,894	5,885	5,903	5,923	5,941	5,961

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

### 【ユーロコース】

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期	第144期
	2022年7月20日～ 2022年8月18日	2022年8月19日～ 2022年9月20日	2022年9月21日～ 2022年10月18日	2022年10月19日～ 2022年11月18日	2022年11月19日～ 2022年12月19日	2022年12月20日～ 2023年1月18日
当期分配金	50	50	25	25	25	25
(対基準価額比率)	1.106%	1.106%	0.572%	0.553%	0.549%	0.565%
当期の収益	19	18	16	19	18	16
当期の収益以外	30	31	8	5	6	8
翌期繰越分配対象額	2,698	2,667	2,658	2,653	2,647	2,638

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### 【円コース】

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円）」につきましては、組入比率を高位に保つことを基本とします。

### 【ユーロコース】

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」と「マネー・リクイディティ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）」につきましては、組入比率を高位に保つことを基本とします。

○DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円／ユーロ）

#### （投資環境の見通し）

欧州国債市場では、ECBは声明文で利上げを当面継続すると示唆していることから、利回りには引き続き上昇圧力がかかると予想されます。もっとも、利上げによる景気減速に対する警戒感が強まっていることや、地政学リスク等は利回りの上昇を抑制する要因と見ています。

欧州ハイ・イールド社債市場については、インフレ動向や主要国の金融政策を巡る観測や景気減速懸念は変動要因と見られます。利回りは数年来の高水準にあることから、投資家からの需要も相応にあると見られ、今後も市場の支えとなることが期待されます。

為替市場においては、ECBの金融引き締め姿勢を背景に、ユーロ高円安が進行してきましたが、日銀による金融緩和政策の修正や、グローバルでインフレ鈍化の兆しも見られていることからユーロ高円安を修正する動きも出ています。ECBや日銀の金融政策を巡る観測から、ユーロは円に対して変動すると考えられます。

#### （運用方針）

各企業のビジネスモデルや、バランスシート、バリュエーションに注目し、銘柄を選別する方針です。格付け別では、相対的な割安感が引き続き見られるB格の債券を嗜好する方針です。

○マネー・リクイディティ・マザーファンド

#### （投資環境の見通し）

国内短期金融市場は、日銀によるマイナス金利政策の継続が見込まれることから、主要な投資対象であるわが国の公社債および短期金融商品の利回りがマイナス圏での推移となり、今後も厳しい運用環境が続くと予想されます。

#### （運用方針）

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行います。

## お知らせ

### 【円コース】／【ユーロコース】

該当事項はございません。

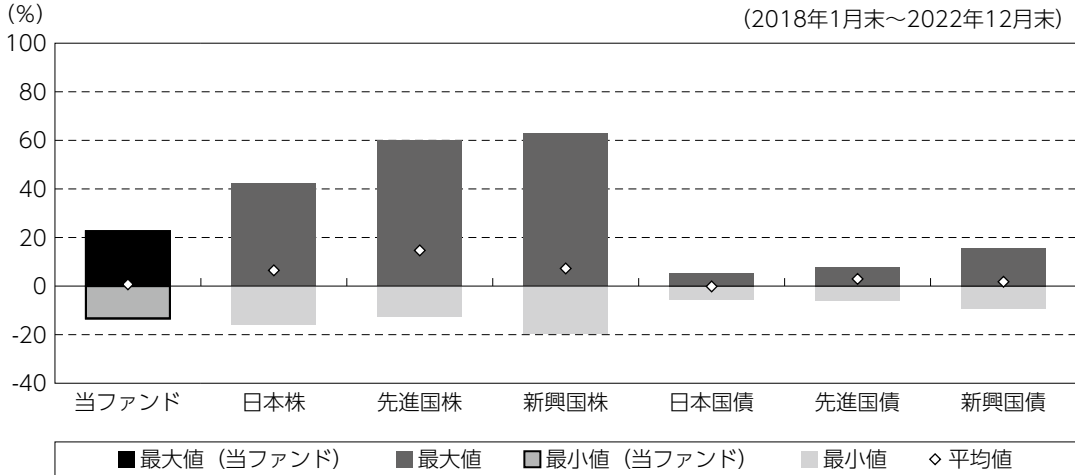
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2011年1月28日から2031年1月17日までです。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的にユーロ建て高利回り社債等に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	円コース	・DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円） ・マネー・リクイディティ・マザーファンド
	ユーロコース	・DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ） ・マネー・リクイディティ・マザーファンド
	DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド	ユーロ建ての高利回り社債等（円）ユーロ建て資産については、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。 （ユーロ）ユーロ建て資産については、為替ヘッジを行いません。
	マネー・リクイディティ・マザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	各ファンドは、DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンドへの投資を通じて、主に欧州諸国のユーロ建てのハイ・イールド債券等に投資し、高水準のインカム・ゲインの獲得とファンド資産の中長期的な成長を目指します。ユーロ建て以外の資産へ投資を行う場合は、当該ユーロ以外の通貨売り、ユーロ買いの為替取引を行うことを原則とします。	
分配方針	毎月18日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 繰越分を含めた配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

【円コース】



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	22.6	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 13.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	0.7	6.5	14.7	7.3	△ 0.1	2.9	1.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

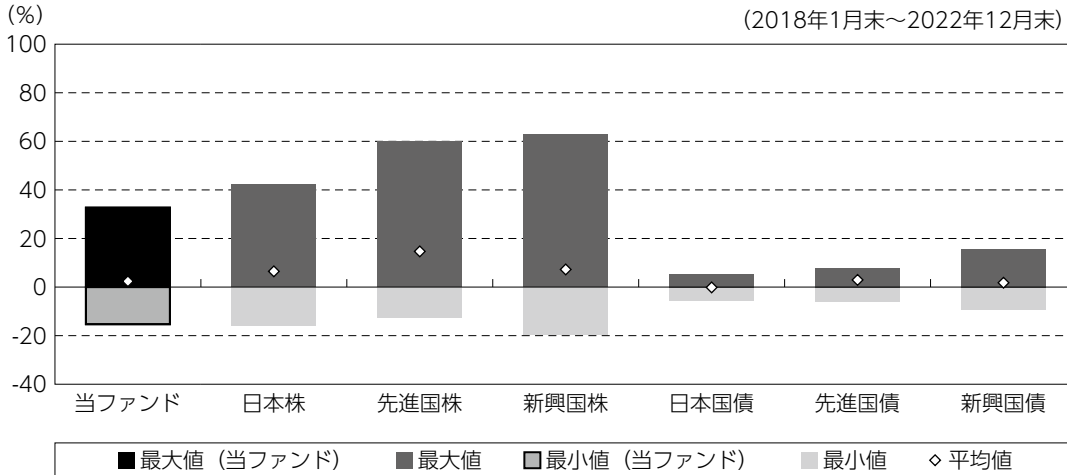
先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

【ユーロコース】



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	32.7	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 15.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	2.4	6.5	14.7	7.3	△ 0.1	2.9	1.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年1月から2022年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



## 当ファンドのデータ【円コース】

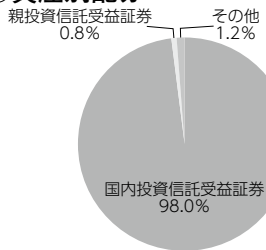
### 組入資産の内容

(2023年1月18日現在)

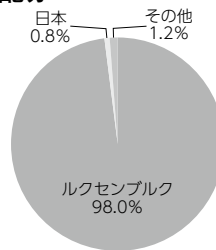
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第144期末
DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド (円)	98.0%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.8%
組入銘柄数	2銘柄

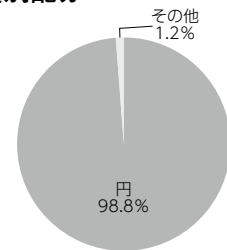
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

項目	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末	第143期末	第144期末
	2022年8月18日	2022年9月20日	2022年10月18日	2022年11月18日	2022年12月19日	2023年1月18日
純資産総額	3,959,389,671円	3,801,265,999円	3,546,953,622円	3,551,592,450円	3,447,294,298円	3,440,351,541円
受益権総口数	8,060,691,579口	8,058,861,952口	7,861,018,333口	7,588,378,943口	7,346,818,902口	7,228,366,623口
1万口当たり基準価額	4,912円	4,717円	4,512円	4,680円	4,692円	4,760円

(注) 当作成期間（第139期～第144期）中における追加設定元本額は485,759,088円、同解約元本額は1,357,571,537円です。

## 当ファンドのデータ【ユーロコース】

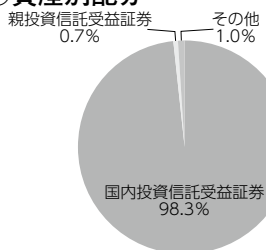
### 組入資産の内容

(2023年1月18日現在)

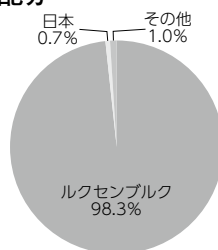
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第144期末
DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（ユーロ）	98.3%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.7%
組入銘柄数	2銘柄

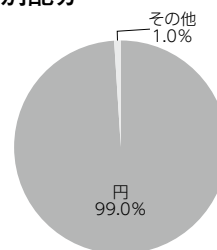
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

項目	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末	第143期末	第144期末
	2022年8月18日	2022年9月20日	2022年10月18日	2022年11月18日	2022年12月19日	2023年1月18日
純資産総額	14,745,214,720円	14,489,086,605円	13,799,801,823円	13,828,835,275円	13,576,281,812円	12,885,387,044円
受益権総口数	32,972,839,229口	32,410,793,772口	31,784,586,220口	30,746,081,714口	29,979,808,731口	29,264,644,048口
1万口当たり基準価額	4,472円	4,470円	4,342円	4,498円	4,528円	4,403円

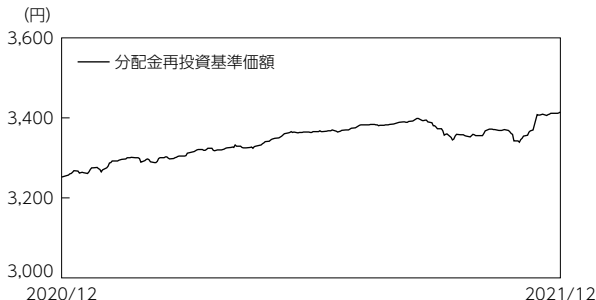
(注) 当作成期間（第139期～第144期）中における追加設定元本額は2,101,406,351円、同解約元本額は5,923,831,694円です。

## 組入上位ファンドの概要

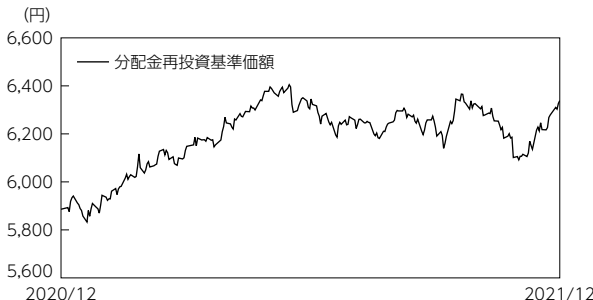
### DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド（円／ユーロ）

※DWS インベストメントGmbHのデータを基に、岡三アセットマネジメントが作成し掲載しております。

【基準価額の推移（円）】



【基準価額の推移（ユーロ）】



【1万口当たりの費用明細】（2021年1月1日～2021年12月31日）

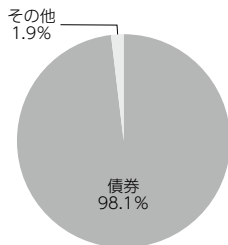
当ファンドにおける1万口当たりの費用の明細に関する情報が不明のため、開示できません。以下は、DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンドの状況です。

【組入上位10銘柄】

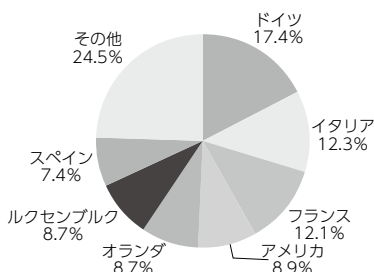
（2021年12月31日現在）

	銘柄名	業種／種別	通貨	国名	比率%
1	Telefonica Europe BV 2014/perpetual	電気通信サービス	ユーロ	スペイン	1.7
2	Novasep Holding SAS	ヘルスケア	ユーロ	ドイツ	1.1
3	Chemours Co./The (MTN) 2018/2026	素材	ユーロ	アメリカ	0.9
4	KME AG -Reg- (MTN) 2018/2023	素材	ユーロ	ドイツ	0.8
5	Summer BC Holdco B SARL -Reg- (MTN) 2019/2026	サービス	ユーロ	ルクセンブルク	0.8
6	Nitrogenmveke Vegyipari Zrt -Reg- (MTN) 2018/2025	素材	ユーロ	ハンガリー	0.8
7	Kronos International, Inc. -Reg- (MTN) 2017/2025	素材	ユーロ	アメリカ	0.8
8	Rossini Sarl -Reg- (MTN) 2018/2025	ヘルスケア	ユーロ	イタリア	0.8
9	thyssenkrupp AG (MTN) 2019/2024	素材	ユーロ	イギリス	0.7
10	Peach Property Finance GmbH -Reg- 2019/2023	不動産	ユーロ	ドイツ	0.7
組入銘柄数			374銘柄		

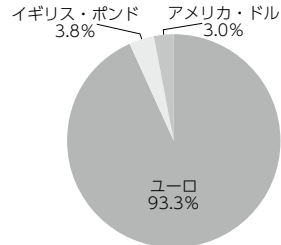
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

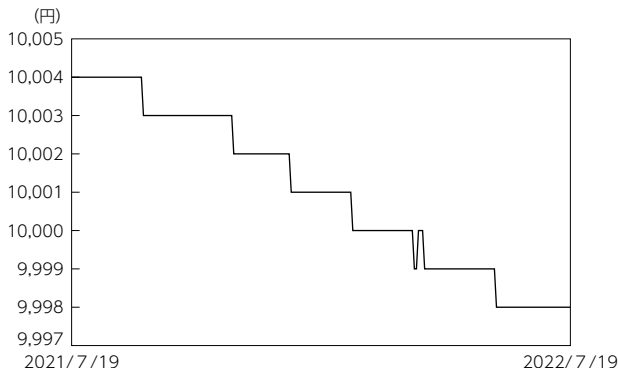


(注) 組入上位10銘柄、資産別配分の比率は、純資産総額に対する割合です。国別配分、通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。  
 (注) 端数処理の関係で合計が100%にならない場合があります。

組入上位ファンドの概要

マネー・リクイディティ・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2021年7月20日～2022年7月19日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	0	0.001
( そ の 他 )	(0)	(0.001)
合 計	0	0.001

期中の平均基準価額は、10,001円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

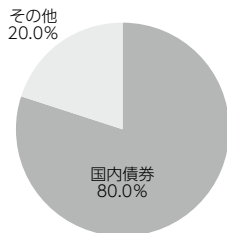
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

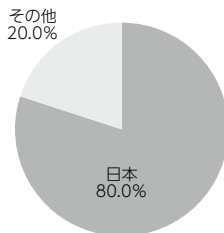
(2022年7月19日現在)

	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地域)	比 率
1	第42回政府保証地方公共団体金融機構債券	特殊債券	円	日本	17.0
2	第182回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	特殊債券	円	日本	15.2
3	第180回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	特殊債券	円	日本	15.2
4	第175回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	特殊債券	円	日本	15.2
5	第39回政府保証地方公共団体金融機構債券	特殊債券	円	日本	15.2
6	第41回政府保証地方公共団体金融機構債券	特殊債券	円	日本	1.2
7	第40回政府保証地方公共団体金融機構債券	特殊債券	円	日本	0.9
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			7銘柄		

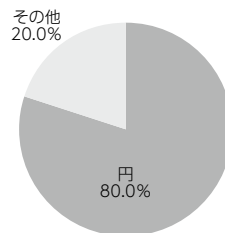
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国（地域）および国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書（全体版）をご覧ください。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。